

第3学年 社会科（公民的分野）学習指導案

日時 2018年8月29日（水）5校時
場所 松里中学校 3年B組教室
対象学級 第3学年B組 24名
指導者 武藤 英紀

1 単元名 第1章 私たちの暮らしと現代社会 3 私たちがつくるこれからの社会

2 単元について

2022年4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられる。このことは、明治以来120年以上にわたり日本社会に受け入れられて根付き、安定的に運用されてきた民法の改正であり、国民一人一人にとって、人生が大きく左右されかねないとも言われている。そうした中で、社会の急激な変化とともに、生徒には「自由と権利」を理解し「義務と責任」を果たすべく力を身に付けさせることがより急務に求められる。公民的分野では、最初に、現代社会を読み解く切り口として、「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」を取り扱っている。それらを踏まえて、私たちがさまざまな社会集団の中で生活し、その中で起きる「対立と合意」の過程の内容に結びつけている。

学習指導要領の「公民的分野の内容(1)『イ 現代社会をとらえる見方や考え方』」においては、「人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる」ことがかけられている。

「対立と合意」の考え方は、これから公民的分野の学習を進める上で、生徒の見方や考え方に結びついてくる。問題解決を図るためには、決して安易な選択ではなく、様々な立場での考察や社会的な背景、時系列的な要素など多面的・多角的な視点を取り入れることが必要となってくる。また、身近な事例から、「効率」が社会全体で「無駄を省く」という考え方、すなわち、「合意」された内容は無駄をはぶく最善のものになっているかを検討するものであることや、「公正」には機会の公正さや結果の公正さなどさまざまな意味合いがあることを理解し、「合意」の手續についての公正さや「合意」の内容の公正さについて理解を生徒はより深めていかなければならない。

「効率と公正」の前には、各人・各集団間の紛争・トラブルが不可避免的に生じやすいと捉える。その上で、対話による交渉などを通じて紛争解決する人々の営みにも着目させる。社会が何を大切にするかを考えることから、各人がどう利益を取り合うかではなく、まずは最低限のみんなの利益・公益を得る関係を理解することを考えさせていく。そして、こうした合意や和解などで展開される人々の安定や安全を維持する活動は、社会の不可欠な要素であることを知る。

また、中学生が地域住民の一員として本単元で学習した見方・考え方にもとづいて、防災意識を高めるために「避難所で多くの人と一緒に生活することになるためのルール作り」を行う。自分たちが避難所で何ができるかを考える力を養え、他者に対する思いやりのある優しい心を持ちながら、より深く「対立と合意」「効率と公正」に着目し課題解決を図る力を養わせたい。

3 研究とのかかわりについて

研究テーマである『『科学的社会認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた研究～』から、本部会では、「科学的とはしっかりと法則に基づいた結果としての事実であるべきだ」との考えをもとに、それは時代の特性を越えて人類社会の普遍性を示すべきものであるべきだとしている。その社会認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考えている。

- ①学習課題に主体的に向き合える生徒
- ②追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒
- ④出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することができる生徒

このことこそが、最終的に公民的資質をもった人間形成につながると考える。そこで、生徒にとって、身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずで、科学的社会認識を育てるための1つの手段とも言える。このような考えから、本単元では、これからの社会を築きあげる生徒が自らの見方・考え方を明確に持ち、対立と合意に至るまでの過程を理解しつつ、その中には「効率や公正」の視点が必要であること、主体者として考えていく資質や姿勢を育むこともねらいとする。

4 生徒について

対象生徒は3年生であり、3年B組（男子11名、女子13名）で実施する。

(1) 生活面について

落ち着いて学校生活を送ることができ、真面目に活動に取り組む姿勢がみられる。学級活動においてはリーダーとなって仲間を引っ張る生徒は限定されるものの、全員が協力して取り組む雰囲気はある。自分の役割や仕事に黙々と取り組む生徒や目立たないけどさりげなく学級活動に貢献する生徒もいて、互いに認め合うことはできている。最上級生という意識も次第に持ち始め、後輩に対する言動も備わってきている。学園祭に向け、手本となるべき先輩の姿を学級全体で確認しながら、集団づくりを進めていく。

(2) 学習面について

社会科の学習に対しては、おおむね前向きに取り組んでいる。授業態度も真面目で、決まった生徒はよく発言するものの、何人かの生徒は自信が持てずに、発言や発表に対して苦手意識を持っている感じもある。ただ、全体学習では発言ができなくても、ペア学習やグループでの意見交換や討議などでは、自分の意見が言える機会も常に設けている。これからも、主体的な場面も増やしつつ、教師との対話だけでなく、仲間との対話的な学びを増やしつつ、社会科の学習意欲に結びつけさせていく。

5 単元の目標

- (1) 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての、対立と合意、効率と公正などを理解するため、身のまわりの生活と関連付けながら、意欲的に追求する。【関心・意欲・態度】
- (2) 人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、ルールやきまりの意義について考える。【思考・判断・表現】
- (3) 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義、様々な資料などから、必要な情報を適切に読み取ることができる。【技能】
- (4) 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて、具体的な事例をもとに理解する。【知識・理解】

6 単元の評価規準

| 社会的事象への 関心・意欲・態度 | 社会的な 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 社会的事象についての 知識・理解 |
|--|---|---|---|
| 家族、地域社会、学校、職場などさまざまな集団における物事の決定の仕方、きまりを守ることの意味に対する関心を高め、身のまわりの生活と関連付けながら、意欲的に追究しようとしている。 | 社会集団の一員として所属する集団や所属員に関わる問題を解決する際、どのような決定の仕方が望ましいのかについて、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、さらに、決定したことを「きまり」として守ることにどのような意味があるのかについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などを理解するために役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 人間は社会的な存在であり、よりよい社会生活を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であることや、社会生活において「対立」が生じた場合、互いの利益が得られるよう、何らかの決定を行い、「合意」に至る努力がなされていることと、さらに、合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要であることを理解し、それらの知識を身につけている。 |

7 単元の指導計画

学習指導要領 2 内容

(1) 私たちと現代社会

ア 私たちが生きる現代社会と文化

現代日本の特色として少子高齢化，情報化，グローバル化などがみられることを理解させるとともに，それらが政治，経済，国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また，現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに，我が国の伝統と文化に関心をもたせ，文化の継承と創造の意義に気付かせる。

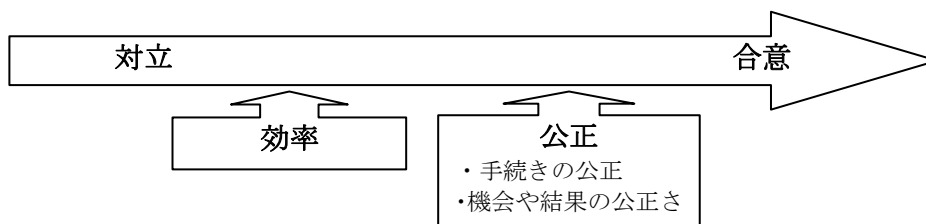
イ 現代社会をとらえる見方や考え方

人間は本来社会的存在であることに着目させ，社会生活における物事の決定の仕方，きまりの意義について考えさせ，現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として，対立と合意，効率と公正などについて理解させる。その際，個人の尊厳と両性の本質的平等，契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。



これにより公民的分野の「見方・考え方」(解説から)を本単元の指導計画を関連させると，

- ・生徒が身に付けるに当たっては，社会生活に見られる具体的な事例「物事の決定の仕方」や「きまり」などを示し取り上げて考えさせていくなどの工夫が必要となる。
- ・「よりよい決定の仕方とはどのようなものか」「なぜ，きまりが作られるのか」「私たちにとってきまりとは何だろうか」などといった問いを追究し考察して見方や考え方の基礎を身につけさせる。
- ・学校や地域の自治会において何か問題(トラブル)が生じ，その解決のために何をすべきかを決定する際，全員が参加して話し合っ決めてたり，多数決で決めてたり，あるいは代表者が集まって決めてたりすることなどが考えられる。

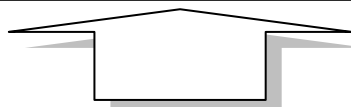


- ・ここで習得した「見方や考え方」は，これ以降の学習において活用するとともに，繰り返し吟味して，政治的な活動や経済的な活動など「多面的」にとらえて説明できる力を養うことも今後ねらいとする。



【単元をまとめてわかること】

社会の様子が変容する中で，「歴史→現在→未来」「情報化・グローバル化・少子高齢化」といった「多面的な視点」や世代を超えた「多角的な視点」を持って，社会の中の対立を解決し合意にいたる過程で，効率と公正の見方・考え方が大切であること。



※【単元を貫く観点(単元の学習課題)】

- ・社会集団の中で成長する私達「社会的存在」の意義を考える。
- ・基本的な生活習慣・マナー・ルール・判断力・行動力考える。
- ・「個人の尊厳と両性の本質的平等」「契約の重要性」を考える。
- ・対立がなぜ起こるのか，それを解決するまでの合意の過程を考える。
- ・合意に至るまでの民主的な手続きと時間と労力を考慮した「効率と公正」を考える。
- ・身近な地域，防災，世代を超えたつながりの視点でより深く「対立と合意」「効率と公正」を考える。



| 時間 | 学習活動 | 重複する評価観点 | | | |
|-----------|--|----------|-----|-----|-----|
| | | (1) | (2) | (3) | (4) |
| 1 | <p>①さまざまな人と生きる—ルールの果たす役割— 【学習課題】 私たちが所属する社会集団や社会に存在するルールは、どのような役割を果たしているのだろうか。</p> <p>学習内容 ・日常生活の中で私たちは、社会集団の中で生きる社会的存在であることに気づき、どのようなルールがあるのか考える。 ・スクランブル交差点と円形交差点の長所と短所を事例として挙げながら、グループで話し合わせて発表する。 ・ルールやきまりに込められた意味を理解し、契約とそこにある責任と義務などの重要性について考える。</p> | ○ | | ◎ | |
| 2 | <p>②よりよい社会を築くために—対立から合意へ— 【学習課題】 社会の中で起こる対立を解決し、合意をみざしていくには、どのような考え方が必要なのだろうか。</p> <p>学習内容 ・社会で暮らす人々の中のさまざまな対立を身近な生活の中から挙げる。 ・意見が対立する問題を解決し合意をみざしていく手立てや方法を考える。 ・「マンションの駐車場問題」を例に、対立から合意に向けた新たなルール作りのあり方について考える。</p> | ○ | | | ◎ |
| 3 | <p>③ルールづくりの条件とは—効率と公正— 【学習課題】 これからの私達は、さまざまなルールとどのように向き合い、関わっていけばよいのかを考える。</p> <p>学習内容 ・学校生活における課題について「部活動ごとのグラウンドの使用割合」「クラスの清掃分担」「学級合唱の選曲」など事例を取り上げる。 ・自分たちのまわりにある諸問題を「効率と公正」という視点で合意案を探って考える。</p> | ○ | ◎ | | |
| 4 【本時】 | <p>④避難生活からルールを決めてみよう —「対立と合意、効率と公正」に着目した地域の課題解決をみざそう— 【学習課題】 避難生活のルールを作り、その内容が「効率と公正」の視点で受け入れられるかを考える。</p> <p>・前時まで学習した「対立と合意、効率と公正」の「見方・考え方」をもとに身近な地域住民の一員として、災害が起きた時の避難生活のルールを考える。 ・同年代だけでなく、様々な年代という多角的な視点を考慮に入れたルール作りを行い自ら検証をする。</p> | | ◎ | ○ | |

8 本時

(1) 日時 2018年8月29日(水) 5校時 14:00~14:50

(2) 場所 松里中学校3年B組教室

(3) 題材 避難生活からルールを決めてみよう

—「対立と合意、効率と公正」に着目した地域の課題解決をみざそう—

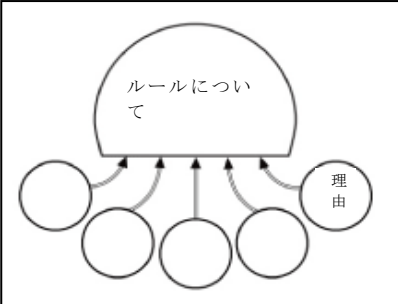
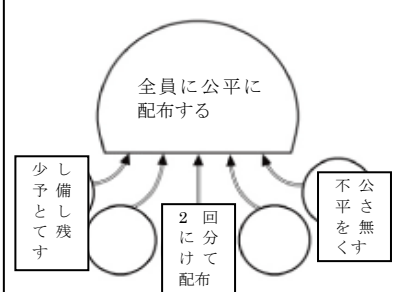

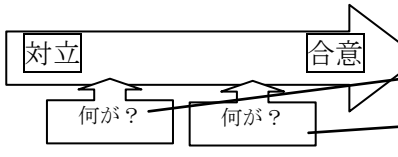
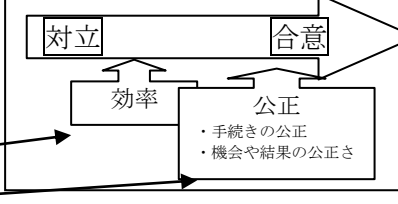

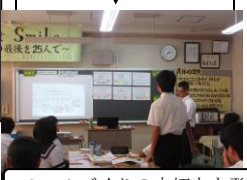


(4) 本時の目標

①対立から合意までの経過について、避難生活を題材に実際の身近な問題として捉えることができる。【技能】

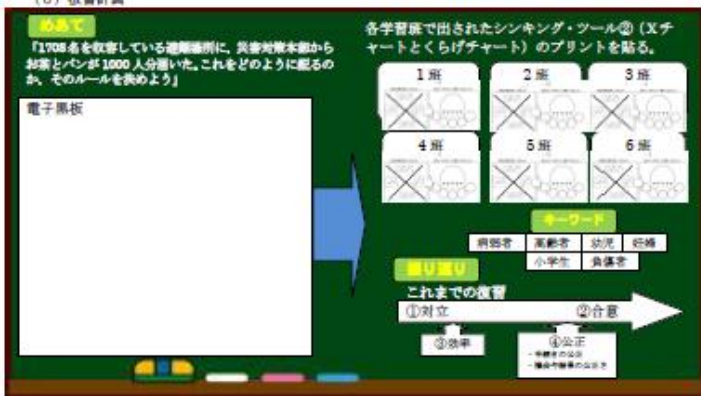
②対立と合意の中で「効率と公正」に注目しながら、多面的・多角的な視点でルール作りに必要な事柄を見つけ、検証することができる。【思考・判断・表現】

(5) 本時の展開 (実際)

| | 主な生徒の学習活動 | ○指導上の留意点・支援 □予想される生徒の反応 | 評価規準 評価方法 | 形態・資料 |
|----------------|--|---|--|--|
| 導入 10分 | <p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <p>2 甲州市土砂災害ハザードマップを見て、ペアで一緒になって自分の地域の避難場所を探す。</p>  <p>自宅を探している様子</p> <p>3 松里中学校を避難場所として防災のシミュレーションを行う。学習のめあてを理解する。</p>  <p>めあての説明をする</p> | <p>○本時の学習内容を確認することで、生徒に1時間の「見直し」を持たせる。</p> <p>○甲州市土砂災害ハザードマップを電子黒板に投影し、実際の写真を見せて説明し、避難場所を確認させる。</p> <p>○土砂災害を想定し、地域住民と実物(お茶とパン)を見せながら、災害情報(1)と本時の「めあて」を提示する。</p> | <p>主体的な学び ・課題をとらえる</p> <p>対話的な学び ・仲間との対話 ・資料との対話</p>  <p>仲間を確認している様子</p> | <p>個人 電子黒板 ワークシート</p> <p>ペア学習 資料 (甲州市土砂災害ハザードマップ) 実物 (パンとお茶)</p> |
| | <p>めあて 「1708名を収容している避難場所に、災害対策本部からお茶とパンが1000人分届いた。これをどのように配るのか、そのルールを決めよう」</p> | | | |
| 展開 I 20分 | <p>4 学習のめあてに対して考えられるルール、思いつくルールを付箋紙に簡単に書く。(複数回答可)</p> <p>5 思いつくルールや考えられるルールを4人班になり、発表する。その際、個人で考えたルールが書いてある付箋紙をシンキング・ツール①「Xチャート」に貼り、考えを共有する。</p>  <p>6 発表が終わったら、追加される新たな災害情報を聞く。</p> | <p>○ワークシートと付箋紙の配布をする。</p> <p>□思いつくルールと予想される解答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員に公平に配布する。 ・世帯分をもらって分け当たる ・食べ物を持っていない人から優先的に配布する。 ・事情がある人、例えば、高齢者や赤ちゃんなどに優先的に配布する。 ・1000人分をさらに細かく分けて、全員に渡す。 <p>○新たな災害情報を追加して、さらに各班で考えを深められるように、机間巡視を行う。</p> | <p>【技能】 付箋紙・観察</p> <p>主体的な学び ・自らの考えを出していく</p> <p>対話的な学び ・仲間との対話 ・仲間との共同作業を進める</p>  <p>グループでXチャートをまとめている様子</p> | <p>個人</p> <p>4人学習班</p> <p>シンキング・ツール (Xチャート)</p> |
| | <p>災害情報(1) ①対象は小屋敷(805人)・藤木(719人)・下柚木(184人)の住民がいること。 ②集中豪雨のため特別警報が発令され、避難勧告がでたこと。 ③3つの地区の15歳未満、15～64歳未満、65歳以上の人口構成を提示する。</p> <p>災害情報(2) <追加> ④豪雨はまだ続き、避難生活は1週間に及び、少なくとも2日間は食事が届かないだろう。 ⑤他の避難場所から避難者が来る可能性もある。</p> <p>※追加情報が多くなると混乱するので、これ以外にはないことを約束する。</p> | | | |

| | | | | |
|--------------------|---|---|--|---|
| | <p>7 災害情報(2)を加えて、班のルールを考える。その結果をシンキング・ツール②「くらげチャート」に記入する。その際、同じような理由はグループ化する。</p>  | <p>○くらげチャートの「頭」の部分は、班で決めた「ルール」の内容を記入し、「足」の部分はその理由を簡条書きで書かせるように指導する。</p> <p>□班で考えた予想される解答</p>  | <p>シンキング・ツール (くらげチャート)</p>  <p>グループの意見をまとめくらげチャートへの記入する</p> | |
| <p>展開Ⅱ 10分</p> | <p>8 電子黒板を活用して各班で話し合ったルールを理由も含めて発表する。その上で、多数決でクラスのルールを1つに決める。</p> <p>9 「ルールを作る上で大切なことは？」についてワークシートを活用しながら復習する。</p> <p>今回のルールを作る上で大切なことは？</p>  <p>10 自分たちの班で考えたルールがクラスで決めたルールと比較して、足りなかった点、配慮する点を出して検証してみる。その内容をワークシートに書く。</p> <p>※もし、自分達でルール作りの過程で「効率と公正」の視点がかうまくまとまらなかったら、教師にアドバイスや視点を求めたり、聞いたりして検証をする。</p> | <p>○めあてに対してグループでの対応を考え、どのようなことを重視したのかをまとめさせる。</p> <p>○「対立から合意」に至るまでの過程で「効率と公正」の視点が各班で必要であることをもう一度確認させる。その中で、自分たちの考えたルールが適切であったかを検証する。</p>  <p>□以下は、予想されるグループが検証した内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し様々な人の立場で配慮したルールを作ることが必要であった。 ・他の班と比べて、自分達のグループで作ったルールでは対立が起こる可能性が高いだろう。 ・ルールは誰もが合意に至る中で民主的な手続きを踏んでいた。 ・パンを配布する手間や時間はかからなかったかと思う。 ・誰もが平等に納得するルール作りにはやはり時間が必要である。しかし、災害には迅速に対応しなければいけないのでルール作りは難しい。 ・社会的な弱者にも配慮することが必要であり、見通しや予測が必要である。 | <p>【思考判断表現】 ワークシート</p> <p>対話的な学び ・グループの考えをまとめる</p>  <p>多数決で一本化する</p>  <p>4人学習班 6つの班の活動へ</p> <p>4人学習班 6つの班の活動へ</p> <p>ルールづくりの大切さを発表する</p> <p>【思考判断表現】 ワークシート</p> <p>深い学びへ ・今までの思考の過程を再考する</p>  <p>グループで再考している</p> | <p>4人学習班 6つの班の活動へ</p> <p>4人学習班 6つの班の活動へ</p> |
| <p>まとめ</p> | <p>11 振り返りを行う 「今日決めたルールと『効率と公正』の関係」について、授業を振り返って書いてみよう。</p> | <p>○机間巡視を行う。 時間があれば数人に発表させる。 ○次回の予定を確認する。</p> | <p>【思考判断表現】 ワークシート</p>  | <p>振り返りの発表の様子</p> |

(6) 板書計画と「特に支援を要する生徒」への補充的な指導



- 資料を読み取ることができない生徒への対応
→授業中の机間指導で絵やグラフを見るときポイントを示す。(例えば、地図帳で調べるページやグラフを見るポイントなど)
- 活発に班活動できない班への対応
→いくつかのケースを例示することで、話し合い活動を促すようにする。
→話し合いに行き詰まった場合など、必要に応じて、班の司会者に対して個別の支援を行う。

(7) 評価

本題材の評価方法として「ワークシート」と「発表・観察」を取り扱う。その中で、本時の目標である「思考・判断・表現」の観点で評価を以下のように設定する。

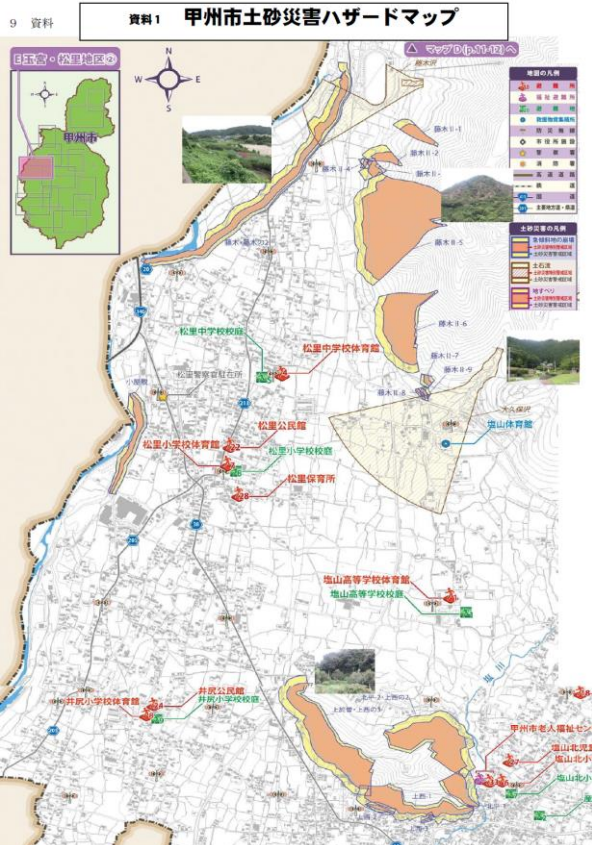
ア ワークシートによる思考・判断・表現の評価

| 十分満足できる (A) の状況 | 努力を要する生徒 (C) への手立て |
|---|---|
| 対立と合意について、その内容を様々な資料を活用して把握することができている。それを踏まえて、仲間との意見交流から合意に至るまでの難しさを理解しながら、効率と公正の視点の必要性を自分の言葉で適切に表わすことができている。 | 対立と合意の意味やルール作りの大切さについて資料のどこに書かれているのか、情報収集のサポートをする。仲間の調べた内容と照らし合わせながら、自分の考えを整理させる。 |

イ 発表・観察による思考・判断・表現の評価

| 十分満足できる (A) の状況 | 努力を要する生徒 (C) への手立て |
|--|---|
| 統計資料や写真などを根拠に対立から合意までの過程を多角的・多面的にとらえて仲間に調べたことや考えたことを伝えることができている。 | 仲間の意見を聞いて、気づいたこと、自分と同じ意見だったらうなずいたり、賛成であると積極的に伝えたりするように促す。 |

(8) 資料



資料2 松里地区(小屋敷・藤木・下柚木地区)の人口構成

平成30年度4月1日現在

| | 全人口 | 男 | 女 | 世帯数 | 15歳未満 ※11.8% | 15~64歳 ※54.7% | 65歳以上 ※33.5% |
|-----|-------|------|------|------|----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 小屋敷 | 805人 | 383人 | 421人 | 315戸 | 男(46人) 女(50人) 計(96人) | 男(210人) 女(231人) 計(441人) | 男(129人) 女(141人) 計(270人) |
| 藤木 | 719人 | 353人 | 366人 | 309戸 | 男(42人) 女(44人) 計(86人) | 男(193人) 女(201人) 計(394人) | 男(119人) 女(123人) 計(242人) |
| 下柚木 | 184人 | 65人 | 87人 | 97戸 | 男(8人) 女(11人) 計(19人) | 男(36人) 女(48人) 計(84人) | 男(22人) 女(30人) 計(60人) |
| 合計 | 1708人 | 801人 | 874人 | 721戸 | (201人) | (919人) | (572人) |

※甲州市の平均人口構成比率(平成27年度)を「小屋敷」「藤木」地区の人数に加算して出した予測の人数になります。したがって、推計上の計算なので必ずしも合計人数と一致することがありません。(資料出所) 市役所ホームページより

資料3 災害情報(1)

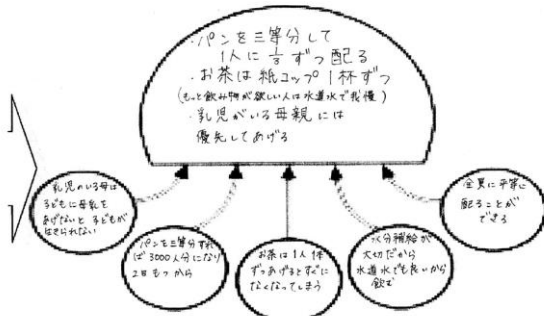
- ①台風12号の影響による地盤のむろさや昨夜から続く集中豪雨のため特別警報が発令され、避難勧告がでました。
- ②速やかに避難して下さい。避難対象者は、小屋敷(805人)・藤木(719人)・下柚木(184人)の計1708人になります。
- ③また、3つの地区の住民はおおよそ15歳未満201人、15~64歳未満919人、65歳以上572人になります。

資料4 災害情報(2)

- ④気象庁の予報によると集中豪雨はまだまだ続きます。このまま行くと、避難生活は1週間に及びます。
- ⑤少なくとも2日間は食事が届かないと予想され、他の避難場所から避難者が来る可能性もあります。

(9) 生徒の成果物について

活動2 クラゲチャートに自分達が考えたルールを1つ書いてみよう。(4)班



社会科ワークシート①

1. めあて 「1708名を収容している避難場所に、災害対策本部からお茶とパンが1000人分届いた。これをどのように配るのか、そのルールを決めよう」

2. 「ルール」を付箋紙に書き出してみよう。簡単に、キーワードでも、何個でも構いません。

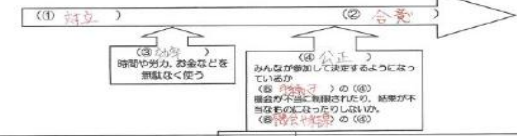
3. 避難場所での私の班のルールは、

① パンを三等分して1人に1ずつ配る。お茶は紙コップ1杯ずつ。乳児がいる母親優先。

※3日としてどの班のルールを採用しますか?

④ (4)班 ルールの内容「パンは三等分して1人に1ずつ配る。お茶は紙コップ1杯ずつ。乳児がいる母親優先。」

※私たちが作ったルールを検証すると・・・



4. もう一度、クラスで決めたルールと自分達の班で決めたルールとを比べて、足りなかった点、配慮すべき点を考えてまとめてみよう。

他の班は年齢別に配る順番を決めてたりした。迅速に対応する人数に見合った数ずつ配る。それと似た。

振り返り あなたの学習の理解度は?当てはまる所に○をつけてみよう。

0% 50% 100%

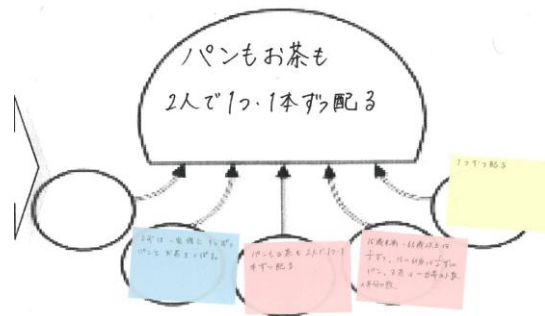
※今日、決めたクラスのルールと「効率と公正」の関係について授業を振り返ってみよう。

・効率と公正がどちらも重要なのに、私は、作るのがとても難しいかとは思っていた。効率を重視してルールを作ると、公正はたごぼしてしまうし、公正を重視してルールを作ると、効率が悪くなる。不満が少ないのは、公正を重視したルールだと思った。

社会科ワークシート①

公正の重視に触れている

活動2 クラゲチャートに自分達が考えたルールを1つ書いてみよう。(1)班



社会科ワークシート①

1. めあて 「1708名を収容している避難場所に、災害対策本部からお茶とパンが1000人分届いた。これをどのように配るのか、そのルールを決めよう」

2. 「ルール」を付箋紙に書き出してみよう。簡単に、キーワードでも、何個でも構いません。

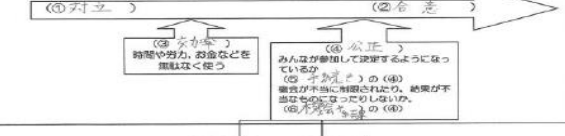
3. 避難場所での私の班のルールは、

① 世界に一つしかない、大切なものは大切に。必要に応じて、15歳未満、65歳以上の人がいる家庭を優先的。

※3日としてどの班のルールを採用しますか?

④ (4)班 ルールの内容「パンはお茶は紙コップ1杯ずつ。乳児がいる母親優先。」

※私たちが作ったルールを検証すると・・・



4. もう一度、クラスで決めたルールと自分達の班で決めたルールとを比べて、足りなかった点、配慮すべき点を考えてまとめてみよう。

男女老若などへの対応が足りなかった。70歳以上の方の対応を考えた。

各世代だけでなく「社会的弱者」にも注目している。

振り返り あなたの学習の理解度は?当てはまる所に○をつけてみよう。

0% 50% 100%

※今日、決めたクラスのルールと「効率と公正」の関係について授業を振り返ってみよう。

・文が率と公正はどちらもとても大事なことだ。どちらをも重視しきると片方が削れてしまうので、適度なバランスをとることが重要なことだ。今の日本は文が率を求めすぎている傾向にあると思う。

社会科ワークシート①

視野を広げて「効率」に触れている

1. めあて 「1708名を収容している避難場所に、災害対策本部からお茶とパンが1000人分届いた。これをどのように配るのか、そのルールを決めよう」

2. 「ルール」を付箋紙に書き出してみよう。簡単に、キーワードでも、何個でも構いません。

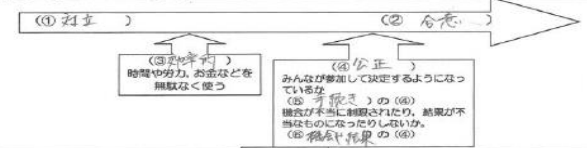
3. 避難場所での私の班のルールは、

① 1家族に1つ1本 1人1本 1人1本 年齢

※3日としてどの班のルールを採用しますか?

④ (1)班 ルールの内容「パンもお茶も2人で1つ1本ずつ」

※私たちが作ったルールを検証すると・・・



4. もう一度、クラスで決めたルールと自分達の班で決めたルールとを比べて、足りなかった点、配慮すべき点を考えてまとめてみよう。

家族の中での子供の割合はいいが、1人1本1本と年齢が課題だった場合、1人1本1本の割合が課題

振り返り あなたの学習の理解度は?当てはまる所に○をつけてみよう。

0% 50% 100%

※今日、決めたクラスのルールと「効率と公正」の関係について授業を振り返ってみよう。

・物ももつたがいなくて、みんな公正に1人1本とお茶をもらってるのがいいなと思った。

・みんな公正と考える部分で、誰か1人でも得をするわけではなく、みんな平等に物事を考えるのが大切だと思った。文が率面では、1班で出た時に1人で1つ1本などのことを考えるのを、少いことがあったときに、それも役に立つなと思った。

日常生活の中でルール作りに必要なことを述べている

振り返り あなたの学習の理解度は?当てはまる所に○をつけてみよう。

0% 50% 80% 100%

※今日、決めたクラスのルールと「効率と公正」の関係について授業を振り返ってみよう。

・みんな公正と考える部分で、誰か1人でも得をするわけではなく、みんな平等に物事を考えるのが大切だと思った。文が率面では、1班で出た時に1人で1つ1本などのことを考えるのを、少いことがあったときに、それも役に立つなと思った。

「平等」に触れながらも「効率」の必要性も感じている。

9 成果と課題（授業を終えて）

（1）授業者の反省

本時は、身近な地域の防災を題材に、対立から合意に至るまでの避難生活に関わるルールづくりを取り上げた。また、対立から合意に至るまでに「効率や公正」の視点を取り入れて、ルールづくりの難しさや、迅速さ、意見の認め合いや受け入れなど、思考を深める手立てについてシンキング・ツールを活用しながら、本時のねらいとした。ねらいに迫るための手立てとして、導入部分では、身近な地域の防災に関する「ハザードマップ」を活用して、臨場感あふれる災害情報を提供し、多角的な視点で考察できるように手立てを講じた。例えば、人口構成の比率の資料を活用し、シンキング・ツールを活用してペア学習や4人班で意見を交流して思考を可視化させることができた。

成果としては、避難生活を行う際のルールづくりの難しさや迅速な対応は必要であるが、やはり、多くの人の意見や考えを共有して誰もが納得し、その中には「公正さ」が重要であることを振り返ることができたことである。生徒達が、いずれ成人を迎える中で社会生活におけるルール作りを少しでも身近に感じ、合意に至るまでの過程を真剣に考え、主権者としての意識を持つことに近づけたことは、これから本格化する公民の授業につながることであった。

ただ、一方で、本時の授業が「対立から合意」に至るまでに「効率と公正」の視点が十分に反映されたか否かを検証することができたかは、不透明であった。その理由として、「対立」の部分があまり見えてこなかったところ、「合意」に至るまでの経過を4人班で話し合いにより、避難生活上のルールは決められたけれど、その後、クラスで多数決をとり、ルールを一本化したことで全員が納得する時間を十分確保できなかったことが挙げられる。このことについては、議論の余地が研究会でもあがった。確かに、多数決では決められないことも多々あり、合意形成の難しさもある。今回は、避難生活を想定しているので、「迅速で誰もがすぐに対応できるルールづくりが必要である」「大事な決めごとに関心でいられない」「議論することの必然さを知る」「納得できないけど、認め合っていくこと、理解していく努力も必要である」などという視点が生徒に理解させることは大切である。

特別活動や道徳の授業で扱う内容にも重複する部分もあるので、社会科としての「見方・考え方」の視点で客観的にまとめることも必要であると感じた。

（2）研究会より

【成果】

- シンキング・ツールを活用する目的として、自分と仲間の意見を比較することを可視化できたことや様々な事象について因果関係や理論づけて説明する手立てとして活用できたことはよかった。
- 生徒が発表する際に、シンキング・ツールを活用して意見を述べていたことも印象深かった。
- グループ活動においては、1人1人の意見をしっかりと聞き合うことができ、試行錯誤しながらグループでルールを決めていく活動が見られた。
- 合意に至るまでに自分の考えや意見を付箋にまとめることができていた。
- 授業規律があつてこそその研究授業。普段の授業とつながっていた研究授業であった。
- 教師と生徒との穏やかで良好な人間関係が感じられた。
- 電子黒板やタブレットを使い、話し合い活動や発表を円滑に進めたことはよかった。ICTの積極的な活用はこれからも有効であった。

【課題】

- ▲「対立から合意まで」の検証が不十分だったのでは。また、「対立」の部分の深まりがほしかった。
- ▲くらげチャートの足の部分がもっとクローズアップされても良かったのでは。各班の「大事にしたこと」をもっとつきつめさせることが可能であったため。内容的にも深めがでたかもしれない。
- ▲Xチャートでは「対立」「公正」「効率」「合意」とグループ化させて、付箋を貼らせると効果的であった。
- ▲ルールを決める上での判断基準がもっと明確化された方がよかった。例えば、「対立と合意」「効率と公正」が判断基準であり、自分達が考えたルールが妥当であったか、クラスで1つに決めるルール選びに適切に合ったのかを考えるべきであった。
- ▲振り返りの中で、「決定」していくことの難しさを感じる生徒は多かった。
- ▲自分達の決定に向かうまでの「キーワード」をうまく活用すると、生徒にも分かりやすさが出た授業になった。
- ▲難しい単元に挑戦した授業だった。「対立」をうまく活用して、「合意」に至る過程の工夫も必要であった。
- ▲導入のハザードマップの所を短縮しても良かったのでは。防災教育の側面が強かった。

【議論されたこと】

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活のルールを班で話し合ったことをクラスで一本化する必要があったかは不透明であった。もし、一本化するならば、多数決ではなく、話し合いを深めて全員が納得する議論も必要であった。 ・合意形成には、やはり「効率や公正」だけでない視点も含まれるのではないか。それを十分知った上で、多数決をとることも必要なので、今回はそこまで至らなかったのが残念。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これから 18 歳の成人を迎え、主権者として社会の一員を担う中で、ルールを決める中で合意形成に無関心ではいけない。そのために、合意形成の中で自分達が積極的に関わらなければ、不利益を被ったり、私たちの生活を守れない場合もある。また、防災の面からも迅速に対応しなければならないこともある。その意味で、合意形成を図り、ルールを一本化する意義はあったのでは。 |
|---|--|

10 生徒の変容について ～研究授業後の取り組みを通して～

(1) 「対立」の視点を授業の中で取り入れる。

研究授業の研究会で出された、合意に至るまでの「対立」の部分を授業の中で扱うことを心がけた。具体的な題材として、以下のようにまとめた。

| 単元 | 内容 | 生徒の変容 |
|-----|--|--|
| 自由権 | 「 プライバシーの権利 」か「 表現の自由 」か？ 誹謗中傷・知的財産権・著作権・個人情報・パソコンへの不正アクセスなどをキーワードとして「対立」の視点はどこにあるかを考えさせた。 | ペア学習で意見を交流しながら、「プライバシーの権利」を保護することが大半であった。ただ、「表現の自由」の規制が行き過ぎると、「自由な発想ができない」「監視されている」という対立点も明確に出て、議論の深まりはあった。 |
| | 「 プロ野球・ドラフト制度 」は必要か否か？ 職業選択の自由を「高校生」と「日本プロ野球機構」の視点で「対立」を考えさせた。 | 「職業選択の自由」を指示する生徒が大半だった。しかし、プロ野球全体の利益やファンのために考えると、今の現制度を維持することが大切だと気づいた生徒も多数いた。 |
| 平等権 | 「 法の下での平等 において、これは『差別』『区別』を考えてみよう」 7つの事例をもとに授業の導入部分で扱い、憲法 14 条「法の下での平等」を理解する。 | 比較的、対立点が明確化され、話し合い活動が進んだ。日常生活の中で起きやすい事例なので「自分」「家族」「仲間」など多角的な視点でとらえ、自分の考えが言いやすい雰囲気であった。 |
| 社会権 | 「 あなたが考える『健康で文化的な最低限度の生活』とはなに？ 」 「高校卒業後に就職して一人暮らしをする」ことを想定して、生活費はどのぐらいかかるのか？を考えさせた。その上で、想定外のことが起きた中で、「貧困」「格差」「失業」「病気」などをキーワードとしてあげて、「生活保護」の観点で憲法 25 条について理解を深める。 | 授業の導入部分の「一人暮らしを想定して生活費を考える」では、「対立」は起きなく、仲間同士の意見交流で納得したり、聞き合ったりしていた。生活保護の問題では、不正受給などを説明したが、「社会的弱者」を守る視点が根強く、社会保障制度の問題点などはあまり理解していないように見られた。今後、現行の社会保障制度を扱う中で「対立と合意」の視点を取り入れて考えてさせていきたい。 |

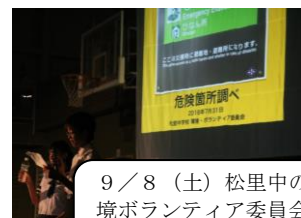
(2) 授業以外での生徒の変容

9月8日に本校では、学園祭・文化発表が実施され、その中で、環境ボランティア委員会が「危険箇所調べ」として、身近な地域の問題点を取り上げた発表があった。例えば、「ブロック塀防の倒壊の恐れ」や「狭い道の看板が突起している箇所」「側溝のすき間から雨水の浸水が危険」「坂道が急な場所で自転車の飛び出し注意」などが挙げられた。また、「普段、何気なく登下校している中で、安全な生活を送るためには、防災や減災を意識したり、災害発生時に私たちが瞬時に対応したり、救助活動を行ったりする必要がある」とのまとめもあった。そこに至るまでには、甲州市土砂災害ハザードマップをもとにした「フィールド・ワーク」があったり、親から危険箇所を聞いたり、生徒が防災に対する関心度の高さがあったことが発表後の生徒の感想からわかった。今回の生徒の活動では、「対立から合意に至る」までの過程は見られなかったが、多面的多角的に思考する生徒の様子がみられた。

研究授業の「振り返り」の部分で、生徒の葛藤もあった「効率と公正」の部分と同じような場面が文化発表の中でみられた。「いつ、どこで、発生するか分からない地震には、すぐに対応する必要がある。しかし、色々話し合っ上で時間が過ぎ、戸惑っていたら手遅れになり、甚大な被害に陥ることも予想される。だから、『家族のため』『地域のため』『絆を大切にしたい』という側面も重要視しながら、災害情報もしっかり把握し、素早く話し合っルールや約束事も決めていきたい。」との感想であった。

このことは、「効率と公正」の視点だけでなく、「地域性」「思いやり」「コミュニケーション」などが合意に至る経過に必要な要因であることに生徒が気づいた変容である。

新学習指導要領でも「防災教育」の重要性を取り上げている。さまざまな領域と連携を図りながら、今後、「対立と合意」「効率と公正」の視点をより深く、考えさせることが公民の授業を行う上で重要であると再認識した。



9/8 (土) 松里中の学園祭・環境ボランティア委員会の「危険箇所調べ」の発表の様子